

⑤ 斎藤正昭 著

『源氏物語のモデルたち』

(笠間書院)

1000年の時を経て、今なお多くの人に読み継がれている『源氏物語』。全54帖から成る壮大な物語には、主人公である光源氏をはじめとする膨大な数の人物達が、いきいきと描かれています。それらの登場人物は、実はモデル・筆拠を前提としている、という物語の本質に迫ったのが本書です。作者である紫式部と関わった、あるいは同時代の人々をモデルとして特定し、「物語」が史実と密接な関係にあることが解き明かされています。

巻末には年譜やモデル一覧等も記載されており、辞書的にも使える一冊です。(N.T.)

913.36 ||Sai

⑦ 川津幸子 著

『あいうえおいしい。 :  
おうちごはんのヒント365日』

(新潮社)

本書では、誰もが普段こうすれば美味しく健康に食事を味わうことができるという工夫や知恵が随所に散りばめられており、5つのテーマにそって「おうちごはん」のコツや金言が惜しみなく披露されています。文章のテンポも絶妙で、内容を参考に作るだけではなく読むだけでも楽しめます。

料理をする方もしない方も、1月から12月までの旬の素材を紹介しつつ綴られた家庭料理の数々を是非読んでみてください。読み進めていくうちに毎日食べる「ごはん」についての理解が深まりますよ。(H. Y.)

596 ||Kaw



⑥ 千玄室 著

『茶のこころを世界へ：平和への祈り』

(PHP研究所)

茶道には、創始者である千利休が掲げた「和敬清寂」という言葉があり、一文字にそれぞれ、平和と調和、互いに敬いあう、清らかな気持ち、何事にも動じない気持ちという意味が込められています。著者はこの茶道の精神と、戦争で生き残った経験を基に「一盃からピースフルネス(平和)を」という理念にたどり着き、この考えを茶道とともに広めるために世界中を回っています。

茶道は日本の伝統文化の一つですが、茶道に込められた精神は現代にも通じることであり、この精神を失わないためにも日本の伝統を守り、次の世代へ伝えていくことは大切なことだと感じました。(F.Y.)

791.2 ||Sen

⑧ 庄司博史 編

『世界の文字事典』

(丸善出版)

本書は世界の様々な文字言語の中から約80の言語を選び出し、文字の読み方とカタカナへの転写法を要領よく解説しています。

アルファベットで書かれているからといって、地名や人名などを英語風に発音・表記すると通じないことがあり、ビジネスや論文などでは信頼を失うかも知れません。旅行や仕事に必要な地名や人名の読み方を知りたいときや、レポートや論文で外国語をカタカナ表記したいときなど、本書は便利な事典です。読み方の難しいアラビア語、タイ語、ヒンディー語などの他に、エジプト象形文字、シュメール楔形文字といった古代文字の読み方についても触れているので、読み物としても楽しく読めるお勧め本です。(F. O.)

801.1 ||Sho